

② 事例別 疑義照会のポイント

1 2 3 4

疑義照会のポイントについて、6つの事例をもとに紹介いたします。処方せんの例を参照しながら、どのような場面で疑義照会が必要となるのか、なぜ疑義照会が必要と判断するのか、事例ごとに解説しています。ケース1では、疑義照会の会話例や、用件を伝える際のポイントも紹介しています。

ケース1 疾患・病態により疑義が必要な場合



- ▶ 75歳男性
- ▶ 既往歴：前立腺肥大症

— 処方せんの例 —

<処方1> A病院 泌尿器科
ハルナールD錠 0.2 mg 1錠1日1回 朝食後14日分
<処方2> B病院 呼吸器科
スピリーバ 2.5µgレスピマット60吸入用
1キット1回2吸入 1日1回朝

●疑義照会のポイント

薬剤服用歴より前立腺肥大症があり治療中の患者さま。COPD（肺気腫）の治療でスピリーバを吸入している。患者さまへの聞き取りより、B病院の医師には前立腺肥大症の件は伝えてあるとのこと。尿の出が悪いなどの症状がないか確認したところ、多少尿が出にくい感じがするとの訴えあり。スピリーバレスピマットは、抗コリン作用があるため、「前立腺肥大など下部尿路に閉塞性疾患のある患者」や「緑内障の患者」に対して禁忌となっている。併用薬から推測される疾患で、禁忌に該当し、かつ副作用症状も見られるため疑義照会を行う。

●疑義照会の結果

スピリーバ 2.5µgレスピマット60吸入用 吸入1日1回朝から、
アドエア250 ディスカス60吸入用1回1吸入、1日2回朝・就寝前に変更となった。

この事例では、処方せんに記載されている薬剤の服用歴から、前立腺肥大症の治療中であることがわかりました。患者さまへの聞き取りより、B病院の医師には前立腺肥大症の件は伝えてあるとのこと。尿の出が悪いなどの症状がないか確認したところ、多少尿が出にくい感じがするとの訴えあり。スピリーバレスピマットは、抗コリン作用があるため、「前立腺肥大など下部尿路に閉塞性疾患のある患者」や「緑内障の患者」に対して禁忌となっている。併用薬から推測される疾患で、禁忌に該当し、かつ副作用症状も見られるため疑義照会を行う。



疑義照会での会話例

薬剤師：処方せんに記載されている薬剤の服用歴から、前立腺肥大症の治療中であることがわかりました。患者さまへの聞き取りより、B病院の医師には前立腺肥大症の件は伝えてあるとのこと。尿の出が悪いなどの症状がないか確認したところ、多少尿が出にくい感じがするとの訴えあり。スピリーバレスピマットは、抗コリン作用があるため、「前立腺肥大など下部尿路に閉塞性疾患のある患者」や「緑内障の患者」に対して禁忌となっている。併用薬から推測される疾患で、禁忌に該当し、かつ副作用症状も見られるため疑義照会を行う。

医師：ありがとうございます。尿の出が悪いなどの症状はないか確認したところ、多少尿が出にくい感じがするとの訴えあり。スピリーバレスピマットは、抗コリン作用があるため、「前立腺肥大など下部尿路に閉塞性疾患のある患者」や「緑内障の患者」に対して禁忌となっている。併用薬から推測される疾患で、禁忌に該当し、かつ副作用症状も見られるため疑義照会を行う。

薬剤師：ありがとうございます。尿の出が悪いなどの症状はないか確認したところ、多少尿が出にくい感じがするとの訴えあり。スピリーバレスピマットは、抗コリン作用があるため、「前立腺肥大など下部尿路に閉塞性疾患のある患者」や「緑内障の患者」に対して禁忌となっている。併用薬から推測される疾患で、禁忌に該当し、かつ副作用症状も見られるため疑義照会を行う。

医師：ありがとうございます。尿の出が悪いなどの症状はないか確認したところ、多少尿が出にくい感じがするとの訴えあり。スピリーバレスピマットは、抗コリン作用があるため、「前立腺肥大など下部尿路に閉塞性疾患のある患者」や「緑内障の患者」に対して禁忌となっている。併用薬から推測される疾患で、禁忌に該当し、かつ副作用症状も見られるため疑義照会を行う。

医師に伝える際のポイント

●ポイント

処方せんに記載されている薬剤の服用歴から、前立腺肥大症の治療中であることがわかりました。患者さまへの聞き取りより、B病院の医師には前立腺肥大症の件は伝えてあるとのこと。尿の出が悪いなどの症状がないか確認したところ、多少尿が出にくい感じがするとの訴えあり。スピリーバレスピマットは、抗コリン作用があるため、「前立腺肥大など下部尿路に閉塞性疾患のある患者」や「緑内障の患者」に対して禁忌となっている。併用薬から推測される疾患で、禁忌に該当し、かつ副作用症状も見られるため疑義照会を行う。

●ポイント

処方せんに記載されている薬剤の服用歴から、前立腺肥大症の治療中であることがわかりました。患者さまへの聞き取りより、B病院の医師には前立腺肥大症の件は伝えてあるとのこと。尿の出が悪いなどの症状がないか確認したところ、多少尿が出にくい感じがするとの訴えあり。スピリーバレスピマットは、抗コリン作用があるため、「前立腺肥大など下部尿路に閉塞性疾患のある患者」や「緑内障の患者」に対して禁忌となっている。併用薬から推測される疾患で、禁忌に該当し、かつ副作用症状も見られるため疑義照会を行う。